



荒川区自衛隊協力会に対する防衛講話

東京地本城東地区隊台東出張所（所長 紺野稔 一等陸尉）は、5月21日、荒川区自衛隊協力会総会に参加した会員に対して、東京地方協力本部長楠見陸将補による防衛講話に対して、東京地方協力本部長楠見陸将補による防衛講話を実施した。

この防衛講話は当協会の会長であり、荒川区募集相談員でもある片岡正光氏からの依頼に基づき行われているものであり、会員の防衛意識の高揚及び自衛隊に関する知識の向上を目的として毎年、歴代の自衛隊東京地方協力本部長が実施してきた。

今年度は、楠見本部長が「国際情勢と自衛隊の活動」と題して我が国を取り巻く安全保障環境、依然として弾道ミサイル等の脅威が残る北朝鮮情勢、我が国の弾道ミサイル防衛の概要、そして最後に募集の現状について講演した。

中でも北朝鮮情勢において、朝鮮半島における2国間の軍事力の比較や北朝鮮が保有・開発する弾道ミサイルの紹介をはじめ、実際にこの一、二年の間に実施された弾道ミサイルの発射実験の概要を地図やイメージ図を用いて分かり易く解説するとともに、我が国の弾道ミサイル防衛（BMD）整備構想・運用構想については、各制御システムの概要や強化する取組及び日米間の協力に向けた取組などをイメージ図や写真により紹介し、聴講した参加者はとても熱心に聞き入っていた。

最後に、現在厳しい自衛官募集の現状を訴え、自衛官募集に対する協力依頼をして講話は終了した。

聴講者からは、「予断を許さない国際情勢の状況や国防の重要性を更に理解できた。」と感想が聞かれた。

台東出張所は、今後も様々な行事や広報イベントを通じて、一人でも多くの区民等に対して自衛隊の活動への理解を得られるよう努めるとともに、その中から一人でも多くの若者が自衛隊を志願してもらえよう積極的に募集広報活動を実施していくとしている。



護衛艦「はたかぜ」による艦艇広報を実施

東京地本は、平成30年5月25日から27日までの間、護衛艦「はたかぜ」（艦長 川岸裕嗣1等海佐）による艦艇広報を実施した。

初日の25日は、横須賀から晴海埠頭への回航を活用して341名が東京湾を体験航海した。参加者は甲板に出て装備品を撮影する等、通常のクルージングとは異なる貴重な体験を満喫しているようだった。

26・27日は、東京港晴海埠頭において開催された「第70回東京みなと祭」に参加し、艦艇の一般公開、装備品展示及び広報ブース設置を実施した。

東京みなと祭は、東京港が国際貿易港として開港したことを記念して行われるイベントで、両日合わせて約80,000人が訪れた。

艦艇の一般公開には、両日とも長蛇の列ができ、延べ10,306人が乗艦し、乗艦者には「はたかぜ」の甲板を公開したほか、5インチ単装速射砲の操法展示、乗員による「らっば」の吹奏及び手旗信号が披露され、乗艦者を大いに楽しませていた。

装備品展示では、第1普通科連隊の支援を受け、指揮通信車、軽装甲機動車、偵察用オートバイ、高機動車を展示した。特に、高機動車は乗車して写真撮影をする等、来場者の人気を集めていた。

広報ブースでは、自衛隊の広報DVDの放映、南極の氷の展示、防弾チョッキ・制服等の試着、自衛隊装備品の写真パネルの展示を実施した。

特に、試着コーナーでは海上自衛隊の制服を着て「はたかぜ」の前でトウチ君と一緒に記念撮影を楽しむ姿が多くみられた。

さらに、1日艦長として、26日は女優の緑川静香さん、27日は女優の永吉明日香さんがそれぞれ任命され、イベントに華を添えた。

特別公開には募集対象者等93名が参加した。参加者は、艦橋・機関室・食堂・浴室・居室等、一般公開では開放していない区画を丁寧に説明を受けつつ見学するとともに、乗組員との懇談により、艦艇の仕事内容や生活等を確認し、護衛艦での生活に対する理解を深めた。最後は、「はたかぜ」特製の護衛艦カレールーを乗組員と一緒に喫食し、目だけでなく胃袋も満たし満面の笑みで艦を後にした。

東京地本は、今後も自衛隊を理解してもらえよう魅力ある広報活動を実施していくとしている。

